

## 文化と世界

ラシーヌ、モリエール、バルザック、ベルレーヌなど、フランス文学の歴史を作り上げた作家たちは、日本でもよく知られています。ミレーやロートレックなどの画家、ビゼーやベルリオーズなどの音楽家も、世界の芸術家たちに大きな影響を与えています。芸術の分野では、イタリア、ドイツとともに、フランスは世界に君臨する国家だと言えるでしょう。

芸術だけでなく、哲学者のデカルト、数学者のラグランジュやコーシーなど、学問の分野でもフランスは偉大な学者を輩出しています。私たちの誰もが子供の頃に伝記を読んだキュリー夫人も、生まれはポーランドですが、フランスで行った研究でノーベル賞を2回も受賞したのです。フランス本国ではあまり知られていないようですが、『昆虫記』の作者ファーブルは、南フランスで昆虫の観察を地道に続けた人でした。

これほど数多くの第一級の学者や芸術家がフランスで活躍できた背景には、フランスが近代初期にいち早く統一国家を築いて、世界各地で植民地を経営し、莫大な富を手にしたことがあるのだらうと思います。芸術や学問が発達するには、社会に余裕がなければなりません。富を蓄積することで、近代国家フランスにはその余裕が醸成されていたのです。

もちろん、お金があっても、文化を享受する風土がなければ、学芸の稔りは得られません。ゴチックやロ

マネスク様式の教会に見られるような、美を追求する志向、パリ大学を中心として行われたキリスト教神学研究のような、精密な論理を基礎とする思想、南フランスに発生し、北にも伝搬することになった、恋愛を華麗に歌い上げる叙情詩など、近代以前のフランスには、近代の学芸を予想させる優れた知性と感性の活動が行われていました。近代以前にすでにこのような風土があったからこそ、国力をつけたフランスに学芸の花が開いたのだと考えることができるでしょう。

18世紀終盤に起きたフランス革命以前は、上流階級だけが、文化的活動に携わることができました。ただ、革命以降も、事情はそれほど変わっていません。革命の成果を制度化したナポレオンは、ほんの一握りのエリートだけが入学できる上級学校をいくつか作りました。フランスの知的活動だけでなく、経済や政治の中核を担ってきたのは、これらの学校の卒業生が中心です。現代の日本で暮らす人間からすると、なかなか想像がしにくいのですが、フランスという国は、法律的にはともかく、現実としては、古い階級制度が残されたままの社会だと言えます。エリートのみ許された、高いレベルの学問と芸術。これが長い間世界を指導する地位にあったことは確かです。もしそうでなければ、フランス文化がどうなっていたのかは分かりません。この善し悪しはともかくとして、世界はフランス文化に魅了され続けています。

表紙写真  
について

## イングランドのカントリーホテル

松沢伸二 Matsuzawa Shinji (新潟大学教育学部)



Jack: Where would we stay?  
Joy: I don't know. Small country hotel?

これは、映画“Shadowlands”(1993)でのやりとりです。JackとJoyは熟年結婚して、新婚旅行先にEngland西部のGolden Valleyを選びますが、その宿泊先についての会話です。私は、この映画でカントリーホテルの存在を知りました。

表紙写真は、妻と英国を旅したときに泊まったHolne Chase Hotelというカントリーホテルです。映画

のホテルは木骨が見えるhalf-timber様式でしたが、私たちの白しゅい建物でした。しかし、田舎の静かなところにある点は同じです。

Londonから西にドライブすると、アガサ・クリスティーの小説で知られる海岸保養地のTorquayに着きます。ホテルはそこから内陸に入ったAshburtonの奥にありました。

11世紀、この地に修道院長のための狩猟小屋が建てられました。それがこのホテルの起源ですが、現在は、人々が都会の喧噪を逃れてくつ

ろぐ隠れ家(hideaway)になっています。

オークの巨木などに囲まれたホテル前の窪地を歩いていくと、Dart川沿いの散歩道に着きます。そこで会った宿泊客の男性は、「Londonは騒がしい。ここには本当の静けさがある」と語りました。

ホテルは地元Devonの食材を料理します。私達はディナーをおいしくいただき、疲れを癒し、翌日はゴールズワージーの“The Apple Tree”(1916)の舞台となったDartmoorに向けて、ホテルをあとにしました。